316-320

一十三 角

# 南欧民族の文学

岸上伸

一

文学美術には国民性とか民族性とかいふものが最もよく現はれてゐるといふのは普通に考へられてゐることである。これは相当の素質を備へてゐる国の文学美術には正に事実である。しかし文学美術に於ては国民性とか民族性を知らうとすれば、これは随分危険であると謂はねばならない。一国の国民性とか民族性とかいふことは、国の歴史を十分に理解しなければ本当に分りやうがない。また単に書物のみ信じて理解することも亦危険である。書いたものを唯一の頼りにしたり、通りすがりの、或ては短かい旅の外人の眼に映つた観あるいは窺てはすることも随分危い。国民性や民族性を論ずることの困難は今さらいふまでもない。横山君のいはゆる

国民や民族の性格を論ずるもの